

令和7年度 第1回 多摩六都科学館組合事業評価委員会 会議録	
日 時	令和7年7月24日（木）午前10時00分から午後1時00分まで
開催場所	多摩六都科学館2階201会議室及びZoomによるオンライン
次 第	1 開会 2 議題 （1）令和6年度の事業評価について （2）令和6年度 自己評価について （3）令和6年度 外部評価について （4）今後のスケジュールについて （5）令和7年度 事業計画について （6）その他 3 閉会
出席者	多摩六都科学館組合事業評価委員会： 縣秀彦委員長、佐々木亨副委員長（オンライン）、佐々木秀彦委員（オンライン）、 岩穴口康次委員、田原三保子委員 多摩六都科学館組合事務局： 保谷事務局長、豊田管理課長、小菊主査、内木主任、秋山主任 事業評価等支援業務受託者：有限会社プランニング・ラボ（村井代表） 指定管理者： 高柳館長、福島 GM、伊藤総務 GL、矢野みらい創造 GL、石井アテンダント GL、 齋藤天文 GL、成田理工 GL、原自然 GL
決定事項	・事業評価委員は、各将来像並びに総括に関する評定及び評価コメントを令和7年8月7日までに事務局に電子メールにて提出をする。 ・事務局は、今後のスケジュール案を事業評価委員に電子メールにて共有をする。
記録方法	会議内容の要点記録
資 料	資料1 令和6年度の事業評価について 資料2 多摩六都科学館 第3次基本計画 前期中期計画 資料3 多摩六都科学館 第3次基本計画 令和6（2024）年度 事業評価総括シート 資料4 令和6年度 多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者 事業報告書（インターネット発信を含む。） 資料5 多摩六都科学館事業評価活動2025 工程表 資料6 多摩六都科学館 令和7（2025）年度 事業全体のPDCAシート（指定管理者） 参考1 多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表及び利用料金集計表（歴年度対照表） 参考2 令和6年度 構成市負担金表

	<p>参考 3 多摩六都科学館耐力度調査業務 現地調査結果概要（速報版）</p> <p>参考 4 多摩六都科学館 令和 7（2025）年度 事業全体のPDCAシート（多摩六都科学館組合）</p> <p>参考 5 令和 6 年度第 3 回多摩六都科学館組合事業評価委員会会議録</p>
凡例	<p>発言者の略記（長：事業評価委員長、委：事業評価委員、組：多摩六都科学館組合事務局、指：指定管理者）</p> <p>以下会議概要</p> <p>次第 1 開会</p> <p>県委員長から開会の挨拶が行われた。</p> <p>次第 2 議題</p> <p>（1）令和 6 年度の事業評価について</p> <p><u>組：資料 1 令和 6 年度の事業評価について説明</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第 3 次基本計画における事業評価の取組方針、「事業評価総括シート」及び「事業全体の PDCA シート」の役割並びに実施する評価方法について説明。 ・令和 6 年度の「事業評価総括シート」は「事業全体の PDCA シート」が試行的な作成にとどめたため、各事業の結果や成果については事業報告書（資料 4）により示し、自己評価については「事業評価総括シート」に自己評価欄を今回だけ設けて、参考として示していることを説明。 ・第 3 次基本計画における段階評価の基準の見直し案は S、A、B、C、D の 5 段階評価として、「所期の目標を概ね達成している状況」の評価基準をこれまでの「A」から「B」に変更したことを説明。見直し案は委員会より承認を得た。 <p>（2）令和 6 年度 自己評価について</p> <p>（●年度の達成目標に対する自己評価結果について、事業実施者より説明）</p> <p><u>将来像 1：「多様な学びの創出」について</u></p> <p>●<u>学校団体以外の平日利用者に向けたプログラムの開発と試行を行う。（継続）</u></p> <p>（指定管理者）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者層の開拓を行うために展示室内のラボ活動を平日の学校団体利用後にも実施し、近隣の子供たちや幼児連れ家族の利用を促進した。 ・平日に「0 歳からのプラネタリウム」、「大人向けプラネタリウム」を実施した。共に好評でこれだけ集客できるプログラムはそうそうないと自負している。 ・大人向け講座を「大人向けプラネタリウム」開催日に合わせて午前中に実施し、科学館で大人向け講座もあるという認知度の向上を目指している。

●「ロボット展」など人気コンテンツに、科学的価値や専門的な情報発信の強化を図る。

(継続・強化)

(指定管理者)

- ・昆虫展では標本展示にとどまらず、館庭調査の成果の公開や分類の展示などを実施した。体験プログラムとして昆虫調査も実施した。
- ・ロボット展では参加券を用いずに誰でも何回でも参加できるようにし自らの習熟を実感しやすくするという、学びの要素を意識した構成にした。初の有料イベントとしてドローンを使用したイベントを行ったが、有料への抵抗感はなく、高い人気を得た。

(質疑応答)

委：ロボットパークの来場者率が146.7%になっているが、どのようにカウントされているか。

指：会場にカウンターを設置してカウントしている。そこを通る度にカウントされるので、同じ人が複数回カウントされることがある。

●利用者や市民が利用・参加しやすいしくみづくりを促進する。(見直し・改善)

(指定管理者)

- ・体験機会の増加、平日への分散化、当日参加可能なプログラムの提供などコロナ禍で狭まった間口を広げることを意識して取り組みを実施した。
- ・事前申し込みの倍率適正化や、対象年齢の細分化による参加者の満足度向上と参加機会の拡大を図った。

●地域資源の調査・研究のため、地域の文化施設の構成員と横のつながりを広げる。

(継続・強化)

(指定管理者)

- ・清瀬駅開業100周年記念事業を清瀬市の博物館、西武鉄道と連携し、プラネタリウムドームでイベントを実施した。博物館とのコラボイベントは以前から継続して実施しているが、「清瀬駅100周年」の大きな節目に、科学館・博物館・西武鉄道で協力事業を実施できた意義は大変大きい。

(組合)

- ・講演会等の実施担当者だけでなく、組合職員が企画段階から関与したイベントもあり、その際、圏域の酒造会社の紹介や酒造会社の直売所にポスター掲示依頼を実施した。

将来像2：「多摩六都の交流拠点」について

●幅広い年代に向けたプログラムを実施する。(継続)

(指定管理者)

- ・「0歳からのプラネタリウム」など、世代や対象を明確にすることで、利用者が入場しやすいプラネタリウムプログラムを実施した。しかし、プラネタリウム観覧者を展示室へ誘導する方策が課題として残っている。

- ・「カレーのヒミツ展」は、予算をかけられなかったが、全日本カレー工業共同組合との連携により内容を充実させ、幅広い年代の来場者や地域店舗との繋がりを生んだ。

●多摩六都科学館ボランティア会をはじめ、市民の社会参画を支援する。（継続）

（指定管理者）

- ・地域の社会参画の場としてボランティア活動の支援を進めている。特に、指定管理者の運営パートナーであるボランティア会の社会参画支援に注力している。
- ・コロナ禍で3年間休止していたことにより活動の仕組みがリセットされ、活動が活発になって、スタッフへの要望や希望が多く寄せられた。ボランティアの自立支援に苦戦する場面もあった。

●地域の企業や博物館と連携・協働した事業を推進する。（継続・強化）

（指定管理者）

- ・「ここだけお話し会」を初の試みとして行い、東京オリンピック金メダリストを招き、ボクシングからカエル研究者になった経緯を語る講演会を実施した。専門分野にとどまらない切り口で好評を得た。
- ・「大人のバイオカフェ」として麹菌研究者による日本酒の発酵の話と話題提供で紹介した日本酒の試飲を実施し、好評を得た。

●「たまろくとウィーク」や「市民感謝デー」を継続して実施する。（継続）

（指定管理者）

- ・地域住民への感謝を込めた「たまろくとウィーク」と「市民感謝デー」を実施した。これらの事業は、コロナ禍後の入館者数増加に伴い、圏域市民の利用率向上に大きく貢献している。

（組合）

- ・圏域市民の科学館へのアクセス改善のため、無料シャトルバスを運行した。
- ・圏域5市の公共施設へのポスター掲示等により、圏域市民への周知を強化した。
- ・市民の地域交流拠点となるような新規事業を検討・実現し、将来像達成を目指す。

将来像3：「愛着の持てるロクト」について

●広報全体を包括して戦略的に実施する基盤を整備する。（見直し・改善）

（指定管理者）

- ・これまで広報活動は行われていたものの、マーケティング視点を含めた戦略的な全体像の把握には至っていなかったため、広報媒体の役割分担を明確にし、業務改善を図った。
- ・マスメディアやデジタル媒体を積極的に広報媒体として活用し、成果として利用者数が前年比約10.7%増加したと考えられる。
- ・従来どおりではない新しい挑戦による一定の成果が出たので評価は「A」とした。

●アンケートの収集方法や収集内容を工夫し、結果を分析する。（見直し・改善）

（指定管理者）

- ・閉館間際にタブレットを用いて詳細なアンケートを実施しているが、それとは別に年 10 回ほどお客様の基本的な属性（来館方法、居住地、同行者、来館頻度など。）に関するアンケートを実施した。これにより、回答率が向上し、より正確なマーケティング情報の収集が可能となったと考えられる。
- ・分析結果を生かしきれていないので評価は「B」とした。

●圏域大学を中心に大学生など青年層の認知度向上策を実施する。（新規）

（指定管理者）

- ・多摩六都科学館指定管理者のユニフォームに付けるロゴマークとしてデザインを募集した。大学生への認知度向上も目指していた。
- ・認知度は向上したと考えられるが、定量的な調査ができていないため、評価は「B」とした。継続開催することで認知度を上げることを目指す。

●開拓の余地がある幼稚園・保育園への働きかけを行う。（新規）

（指定管理者）

- ・圏域市内の幼稚園、保育園の園長会に組合と出向き、利用促進のための PR 活動を行った。
- ・PR 活動は行ったものの、成果については令和 7 年度以降に判明するため、評価は「B」とした。

（組合）

- ・圏域の子育て支援担当課等に連絡を取り、園長会での PR 機会の確保に係る日程調整を実施し、市の子育て支援の担当課や圏域の私立幼稚園とつながる機会を得られた。
- ・令和 5 年度は郵送による一方向だったが、令和 6 年度は対話による双方向型の周知手法に変えて、お互い顔が見えるより良い関係性づくりの第一歩になったと考える。

（質疑応答）

委：来館者アンケートを見ると 6 歳以下の子たちも来ているが、2 歳～5 歳の子たちに興味を持ってもらえるようなものがどれくらいあるのか。

組：興味を持ってもらえるような展示やプログラムの存在について、指定管理者が発信強化をしている。育園児・幼稚園児は、園の行事で七夕があると思うが、その時に七夕の幼児投影を行ったり、時期によってはほかの星をテーマにして行っており、ニーズとして需要はあると考えられる。

委：将来の顧客になるので、種まきを続けてほしい。顧客だけではなく、サポーターやボランティアになってくれる可能性があり、とても大事な取り組みである。

委：圏域 5 市内ではどのくらいの幼稚園・保育園の施設が来てくれているか。

指：207 施設中 88 施設が来てくれている。市によっては、助成金が出る。例えば、東村山市や小平市は保育課からバス代や利用料金の援助を行っている。このような市か

らは積極的な利用があるが、そうでない市はなかなか来づらく、ほかの施設に行ってしまう可能性がある。

長：関連して質問したいが、圏域5市の小学校・中学校の何割ぐらいが学習投影で利用されているか。

指：東久留米市の2校以外は全て来ている。

長：来ていない理由はあるか。

組：東久留米市だけは公費負担がなく、全て受益者負担になっている。東久留米市の特に科学館からアクセスの悪いエリアの小学校は、なかなか科学館への足が向かない結果になっていると考えている。

委：もっと訴えかけて公費負担にしないでほしい。ぜひ100%を目指してほしい。

●多摩六都科学館の支援者やパートナーを増やしていくための支援体制・受け皿を整備する。（見直し・改善）

（指定管理者）

- ・「法人・団体サポーター」制度の金額、特典の見直しを行った。
- ・見直しは行ったが、見直し後の「法人・団体サポーター」制度は令和7年度から適用となるため、令和6年度の評価は、「B」とした。

●「たまろくとウィーク」や「市民感謝デー」を実施することによって、市民から「地域の科学館」として愛着を持ってもらえるよう働きかけを行う。（継続）

（指定管理者）

- ・将来像2で説明をしているため、割愛する。

（組合）

- ・シャトルバスの始発便に職員が乗り、乗車された圏域市民から科学館で体験したいことやアクセス改善が来館動機に大きな影響を及ぼすなどの声を直接聴くことができた。
- ・事業目的に対する理解を科学館関係者で深め、圏域市民にとってより魅力的な事業を検討して実施することを目指す。

（質疑応答）

長：「たまろくとウィーク」や「市民感謝デー」は、いつから実施しているか。

組：「市民感謝デー」は、開館10周年（平成15年度）を機に始めた事業であり、「たまろくとウィーク」は、圏域市民へのサービス拡充の事業プログラムとして平成30年度から実施をしている。

長：今年度は特に何か良くなったことがあるか。

指：習慣形成という言い方をしているが、ポスターのデザインを昨年度から統一し、市民にこのデザインが出れば「たまろくとウィーク」や「市民感謝デー」が始まるということを分かりやすくした。また、圏域にある西武鉄道の21駅＋西武新宿駅、高田馬場駅、所沢駅の3駅にポスターを掲載した。アンケート調査でポスターを見て来館された回答者が複数名いたので、一定の成果があったと考えられる。

長：シャトルバスは昔から出しているか。

組：約 15 年前から出している。

委：西武鉄道にポスターを掲載すると有料だと思うが費用面ではどう考えているか。

指：企画をとおして西武鉄道とつながりを持てるようになり、無料で掲載させてもらった。ただし、ポスターを貼る場所は有料のポスターが掲載される場所ではなく、ほかの場所になっている。

将来像 4：「持続可能なしくみづくりを」について

●広報・地域連携・財政確保など課題解決に向けた組織体制を整備する。（見直し・改善）

（指定管理者）

- ・組織再編を行い、5 年後、10 年後の科学館の未来のため今何をすべきか考える「みらい創造」という新しいグループを作った。
- ・一定の成果が単年度で出ているため、評価は「A」とした。

（組合）

- ・令和 6 年 4 月に、新たな職員 2 名を採用し通常の体制に戻った。

●財源基盤整備のため、団体サポーター制度の見直しなどの寄附金制度の整備を図る。

（見直し・改善）

（指定管理者）

- ・特典の大幅な見直しを行った。従来はホームページへのバナー掲載だったが、ロクトニュースへの企業名掲載、プラネタリウム上映前の企業名投影、館長との食事会（目玉特典）を新設した。
- ・令和 6 年度は 2 件の申し込みがあり、最終的には 7 件の申し込みがあった。
- ・これらの成果から評価は「A」とした。

（組合）

- ・寄附金制度を整備し、効果的かつ効率的に運用していくために、圏域法人や団体を対象とした周知方法について指定管理者と組合で検討して協議を行った。
- ・組合の寄附金制度は従来まで積極的に周知活動をしていなかったため、取扱要綱を令和 6 年 10 月に制定し、同年 11 月より取扱要綱を組合ホームページにて周知をし、令和 7 年 3 月に指定管理者が作成したサポーター制度の冊子に挟み、周知を図った。

（質疑応答）

委：団体サポーターになった企業に対してボランティアの依頼をするのはどうか。ファンを増やす手立てになるのではないか。

指：今回団体サポーターになった企業は遠方のため難しいかもしれない。

●長期保全計画の策定に向けて、耐力度調査を実施する。（見直し・改善）

（組合）

- ・長期保全計画の策定に向けて、耐力度調査を実施した。
- ・長期保全計画は指定管理者の協力を得ながら令和 7 年度に行う予定である。

総合的な所見について

(指定管理者)

- ・令和6年度は、多摩六都科学館の5年後、10年後を見据えた取り組みを本格化させる決意を固めた年であった。
- ・初年度ということで大きな挑戦はできなかったが、今後は失敗を恐れずに挑戦を重ねていく。「挑戦しないことこそ失敗である。」という考えのもと、積極的に新しい試みを行っていく。
- ・組合とのコミュニケーションは、密に連携したつもりだが、詰めが甘かったという反省点がある。次回以降は、さらに綿密なコミュニケーションを図り、連携を強化していくことを目指す。

(組合)

- ・財源確保が大きな課題となっており、サポーター制度や寄附金制度などの整備に積極的に取り組んでいる。

(3) 令和6年度 外部評価について

- ・今回の委員会内では、外部評価委員の評定作業等を行わずに後日電子メールにて各将来像並びに総括に関する評定及び評価コメントを提出していただき、「事業評価総括シート」が完成したら、管理者へ報告をする。
- ・その後、事務連絡協議会、理事会及び議会で報告をし、内部的には振り返りの場を設けて委員からいただいた意見を参考に今後の事業改善を検討する。

(4) 今後のスケジュールについて

- ・第2回事業評価委員会を11月頃に開催予定。内容としては、「第3次基本計画における事業評価のあり方について」を諮問しているので、その答申案を協議していただく予定。答申案の骨子としては、評価全体の仕組みと市民意見を反映させる仕組みの構築となり、具体的には事業評価委員を現行5名から8名に増員することなどである。増員には条例の改正が必要となるため、答申が必要になる。
- ・日程は未定だが、事業視察を検討している。中期目標の達成や令和7年度の達成目標に向けて事業を行っているので、事業の理解を深められる場としていただきたい。

(5) 令和7年度 事業計画について

会議時間の都合上説明ができなかったため、次回の委員会で説明をする。

(6) その他

特に協議事項はなし。

次第3 閉会